

介 護 ロ ボ ッ ト 導 入 計 画

平成 28 年 12 月 8 日

法人名 (みなと医療生活協同組合)

事業所名 (介護老人保健施設 あつたの森)

サービス種別 (介護老人保健施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
装着型介護ロボット (移乗・排泄・入浴)		HAL®介護支援用 (腰タイプ) 機器の特徴はパンフレットご参照ください。	
導入時期 (予定)	導入 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
平成 29 年 3 月 31 日	1 台	平成 29 年 3 月 31 日	
【事業概要及び導入スケジュール】 別紙計画書の通り			
【倫理面への配慮】 採択された場合は、施設利用者、およびその家族に告知説明し、同意を得る予定です。			
【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処) 介護支援ロボット導入と、定期的開催される介護動作研修により、①介護職員の腰部負担の低減、②介護サービス (ケアの質、自立支援への効果) の向上、③定着率の向上 (離職率の低減) を目的とします。 (検証方法および目標)			
① 検証方法: 10 段階評価表を使用して本機を利用した場合の腰部疲労度と本機を利用しなかった場合の腰部疲労度を比較します。定期的に測定することで本機による腰部負荷低減の効果について可視化します。			
① 目標: 本機使用による腰部疲労度の評価数値を 2~5 低減することを目標とします。			
② 検証方法: ヒアリングシートを活用して、利用者、および利用者家族に対して、満足度調査を実施します。			
③ 検証方法: 退社時のヒアリングを通じて、腰痛が原因での退職者数を把握します。			

【介護ロボット導入による期待される効果等】

- ① 職員の処遇改善およびモチベーション向上：介護ロボットは腰痛で悩む職員への処遇改善となることが期待され、また、腰痛が原因で業務負担に苦しむ職員のモチベーションが向上することが期待されます。
- ② 利用者の満足向上（ケアの質の向上、自立支援のへの効果）が向上し、利用者、およびその家族の満足度が向上することが期待されます。当該介護ロボットは、すでに腰部への負荷を科学的に軽減することが証明され、論文として発表されています。さらに当該介護ロボット導入施設では、職員の不可低減が、利用者からも移乗時に安心できると評価されています。
- ③ リクルート効果：介護ロボットを活用し、従業員の負担を軽減していることをアピールすることで、職員厚生を重視する施設として、他の施設との差別化が期待されます。
- ④ 他の施設へのモデルケース：腰痛で悩む職員を抱える他の施設と、先進的な取り組みを共有することで、名古屋市の介護事業所全体の士気を高め、処遇改善事業のモデルケースを目指します。

介護ロボット導入計画

<p>(1)導入背景および目的</p>	<p>当施設は平成16年6月に開所し、愛知県名古屋市中、年間約1700人の入所者を受け入れております。当施設の全入所者の47%が全介助(要介護4.5)レベルの方であり、生活する上で介護職員の介助が必須の状態にあります。昨今、介護業界においては、ノンリフティングの考えが浸透しつつありますが、介護業務全般を機械化する事は現時点では困難であり、未だに移乗、排泄、入浴作業などを人によって行っております。またそのような業務を継続的に繰り返すことにより、身体的に負担のかかりやすい腰部に痛みなどの苦痛を伴う者も少なくありません。そういった身体的な症状の出現している職員へのフォローや、ひいては身体的な負担を掛けない介護作業などの工夫などが、永続的な課題となっております。</p> <p>また、超高齢社会において介護職員の確保や、離職率の低減においても早急な対応を余儀なくされております。腰痛を抱える職員も多く、本人が望むにもかかわらず、介護職を続けられるかわからないといった不安の声も多く聞いております。しかし、そのような厳しい状況下においても当施設では2012年に介護職を中心に入所者の自立支援ためのプロジェクトを立ち上げ、自立支援、在宅復帰支援に積極的にとりくみ2015年1月より在宅強化型老健の指定を受けております。今後は重度者の受け入れ対応力を上げ、自立支援介護の質向上のためにも介護職の身体的負担を軽減することは喫緊の課題と考えています。</p> <p>今回、本事業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護業務に伴う腰部への負担を低減する ・介護サービス(自立支援介護のケアの質)の向上 ・離職率の減少に寄与する <p>を目的に、特に腰部負荷作業となる以下4分野</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 移乗作業(ベット⇄車椅子 ベット⇄ストレッチャー 低床⇄車椅子) ② トイレでの排泄介助作業、ベッドでのオムツ交換、体位変換 ③ シャワー浴・機械浴などの入浴介助 ④ 食事・整容・家事などの生活支援作業 <p>に対しCYBERDYNE社「ロボットスーツHAL®」(以下本機)を導入し、研修を実施します。</p> <p>【参考】 当施設では看護・介護職員のほぼすべてが程度の差はあるが、腰に不安をかかえながら業務を行っている。また、常時腰にコルセットを使用(予防も含む)して業務を行っている職員も多い。</p>
<p>(2)事業実施の方法および検証方法</p>	<p>①:実施方法: ・HAL®介護支援用腰タイプ導入(添付①製品パンフレット) ・CYBERDYNE社による導入講習・定期講習サービス(添付②導入講習・定期講習)</p> <p>②:計測方法 ②-1:腰部負担低減について ②-1-1:移乗作業(ベット⇄車椅子 ベット⇄ストレッチャー 低床⇄車椅子) 現在、入所者の介護度(残存機能)に合わせて、介護職員1名、あるいは2名で移乗作業を行っている。移乗動作を行う際には、入所者の安全を第一に考えその方の残存機能を活かし、且つ介護者にとっても負担のかけやすい方法を工夫している。しかし状況によっては入所者を抱え込みながら移乗せざる終えない事も多々見られており、そのような作業を繰り返す事は結果として腰痛を引き起こす恐れも考えられる。</p> <p>(実現目標および検証方法) 検証方法:10段階評価表を使用して本機を利用した場合の腰部疲労度と本機を利用しなかった場合の腰部疲労度を比較します。定期的に測定することで本機による腰部負荷低減の効果について可視化する。また、本機使用による腰部疲労度の評価数値を2~5低減することを目標とします。</p> <p>②-1-2:トイレでの排泄介助作業、およびベッドでのオムツ交換、体位変換 現在、トイレでの排泄介助作業においては、入所者の介護度(残存機能)に合わせて、介護職員1名、あるいは2名で介助作業を行っています。特に、車椅子からトイレへの移乗時に入所者を抱き抱えつつ、ズボンの上げ下ろしを行う作業は、腰部への負担が強い。ベッド上でのオムツ交換、体位変換においては、中腰姿勢を維持しながら実施する事が多く、腰部に負担がかかる。また同様の作業を繰り返し行われる。これらの作業は中腰姿勢によるものであり腰部負担が強い。(検証方法はAと同じく、10段階評価表にて行います)</p> <p>②-1-3:シャワー浴・機械浴などの入浴介助 現在、シャワー浴・機械浴などの入浴介助では、入所者の介護度(残存機能)に合わせて、介護職員1名、あるいは2名で介助作業を行っている。特に、入浴中の作業は屈み作業が多く含まれ、長時間の中腰姿勢を余儀なくされ、腰部への負担が強い。(検証方法はAと同じく、10段階評価表にて行います)</p> <p>②-1-4:食事・整容・家事などの生活支援作業 現在、食事・整容・家事などの生活支援作業では、入所者の介護度(残存機能)に合わせて、介護職員1名で作業を行っている。この生活支援作業には、中腰姿勢を維持する動作が多いため腰部負担が強い。(検証方法はAと同じく、10段階評価表にて行います) 腰部疲労度の評価数値を2~5低減することを目標とする。</p> <p>②-2:介護サービス(ケアの質)の向上:ヒアリングシートを活用して、利用者、および利用者家族に対して、満足度調査を実施します。</p> <p>②-3:離職率の低減:退社時のヒアリングを通じて、腰痛が原因での退職者数を把握します。</p>

(3) 事業実施の
目標・期待効果

事業内容を実施することにより、以下を目標とします。

① 目標: 本機使用による腰部疲労度の評価数値を2~5低減することを目標とします。

① 検証方法: 10段階評価表を使用して(添付資料A)本機を利用した場合の腰部疲労度と本機を利用しなかった場合の腰部疲労度を比較します。定期的に測定することで本機による腰部負荷低減の効果について可視化します。

② 検証方法: ヒアリングシートを活用して、利用者、および利用者家族に対して、満足度調査を実施します。

③ 検証方法: 退社時のヒアリングを通じて、腰痛が原因での退職者数を把握します。

【介護ロボット導入により期待される効果等】

① 職員の処遇改善およびモチベーション向上: 介護ロボットは腰痛で悩む職員への処遇改善となることが期待され、また、腰痛が原因で業務負担に苦しむ職員のモチベーションが向上することが期待されます。

② 利用者の満足度向上(ケアの質の向上): 介護者の腰部負担が軽減することで、介護者にゆとりが出来、施設利用者へのサービス(ケアの質)が向上し、利用者、およびその家族の満足度が向上することが期待されます。当該介護ロボットは、すでに腰部への負荷を科学的に軽減できることが証明され、論文として発表されています。さらに当該介護ロボット導入施設では、職員の移乗時の負荷低減が利用者からも移乗時に安心できると評価されています。

③ リクルート効果: 介護ロボットを活用し、従業員の負担を軽減していることを、アピールすることで、職員厚生を重視する施設として、他の施設との差別化が期待されます。

④ 他の施設へのモデルケース: 腰痛でなやむ介護職員を抱える他の施設と、先進的な取り組みを共有することで、名古屋市の介護事業所全体の士気を高め、処遇改善事業のモデルケースを目指します。

(4) 導入計画
スケジュール

平成29年3月導入

平成29年4月 初回導入講習に参加

↓

施設内で使用者講習を実施

↓

運用開始

↓

以降毎月定期報告(CYBERDYNE社)

平成29年4月 第1回研修会

平成29年10月 第2回研修会

平成30年2月 施設内で効果検証、および年次報告書作成

平成30年3月 年次報告書提出(1年目)

平成30年10月 第3回研修会

平成31年2月 施設内で効果検証、および年次報告書の作成

平成31年3月 年次報告書提出(2年目)

平成31年10月 第4回研修会

平成32年2月 施設内で効果検証、および年次報告書の作成

平成32年3月 年次報告書提出(3年目)

年度	平成29年度												平成30年度												平成31年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
事業方針・事業計画	→																																			
導入時期	→																																			
導入設備	→																																			
導入	→																																			
協議やネットワーキング(サイバー・ダイナミック)	→																																			
定期研修	→			→									→			→									→											
定期報告	→												→												→											

(5) 補助事業の
開始及び完了予
定日

平成29年3月31日~平成32年3月31日

いつもご利用いただきましてありがとうございます。HAL®使用における介護負担軽減度を教えてください。

氏名	記入日		年 月 日		
ご年齢	10代・20代・30代・40代・50代・60～	腰痛の有無	無・有(診断名:)		
今月の装着回数	午前 回	午後 回	夜勤 回		
【質問1】 介護作業で、腰部負担を感じる度合いを数字に〇をつけて教えてください					
① 起き上がり介助					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
② 立位を支える移乗介助					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
③ 肩介助での移乗介助					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
④ スライドボードでの座位移乗介助					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
⑤ ラクラックスなどでの臥位移乗介助					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
⑥ 体位変換					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
⑦ トイレ介助					
← -5 -4 -3 -2 -1 -0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
⑧ ベット上での排泄介助					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
⑨ 入浴介助					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
10 食事介助					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
11 口腔ケア					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
12 着衣・脱衣					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
【質問2】 1日の仕事が終わった後の疲労度はどの程度でしたか？					
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →					
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい					
【注意事項】					
弊社が管理する個人情報は、あらかじめお客様の同意がある場合、法令に基づき要請された場合などを除き、第三者に提供または開示はいたしません。 ～アンケートにご協力頂きまして、誠にありがとうございました～					

介護ロボット導入計画

平成 28 年 12 月 16 日

法人名 (みなと医療生活協同組合)

事業所名 (介護付有料老人ホーム 虹の郷)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
装着型介護ロボット (移乗・排泄・入浴)		HAL®介護支援用 (腰タイプ) 機器の特徴はパンフレットご参照ください。	
導入時期 (予定)	導入 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
平成 29 年 3 月 31 日	1 台	平成 29 年 3 月 31 日	
【事業概要及び導入スケジュール】 別紙計画書の通り			
【倫理面への配慮】 採択された場合は、施設利用者、およびその家族に告知説明し、同意を得る予定です。			
【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処) 介護支援ロボット導入と、定期的開催される介護動作研修により、①介護職員の腰部負担の低減、②介護サービス (ケアの質、自立支援への効果) の向上、③定着率の向上 (離職率の低減) を目的とします。 (検証方法および目標)			
① 検証方法: 10 段階評価表を使用して本機を利用した場合の腰部疲労度と本機を利用しなかった場合の腰部疲労度を比較します。定期的に測定することで本機による腰部負荷低減の効果について可視化します。			
① 目標: 本機使用による腰部疲労度の評価数値を 2 ~ 5 低減することを目標とします。			
② 検証方法: ヒアリングシートを活用して、利用者、および利用者家族に対して、満足度調査を実施します。			
③ 検証方法: 退職時のヒアリングを通じて、腰痛が原因での退職者数を把握します。			

【介護ロボット導入による期待される効果等】

- ① 職員の処遇改善およびモチベーション向上：介護ロボットは腰痛で悩む職員への処遇改善となることが期待され、また、腰痛が原因で業務負担に苦しむ職員のモチベーションが向上することが期待されます。
- ② 利用者の満足向上（ケアの質の向上、自立支援への効果）が向上し、利用者、およびその家族の満足度が向上することが期待されます。当該介護ロボットは、すでに腰部への負荷を科学的に軽減することが証明され、論文として発表されています。さらに当該介護ロボット導入施設では、職員の不可低減が、利用者からも移乗時に安心できると評価されています。
- ③ リクルート効果：介護ロボットを活用し、従業員の負担を軽減していることをアピールすることで、職員厚生を重視する施設として、他の施設との差別化が期待されます。
- ④ 他の施設へのモデルケース：腰痛で悩む職員を抱える他の施設と、先進的な取り組みを共有することで、名古屋市の介護事業所全体の士気を高め、処遇改善事業のモデルケースを目指します。

介護ロボットHAL® 導入調査

いつもご利用いただきましてありがとうございます。HAL®使用における介護負担軽減度を教えてください。

氏名				記入日	年	月	日
ご年齢	10代・20代・30代・40代・50代・60～			腰痛の有無	無・有(診断名:)		
今月の装着回数	午前 回		午後 回		夜勤 回		
【質問1】 介護作業で、腰部負担を感じる度合いを数字に○をつけて教えてください							
① 起き上がり介助							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
② 立位を支える移乗介助							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
③ 肩介助での移乗介助							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
④ スライドボードでの座位移乗介助							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
⑤ ラクラックスなどでの臥位移乗介助							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
⑥ 体位変換							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
⑦ トイレ介助							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
⑧ ベット上での排泄介助							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
⑨ 入浴介助							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
10 食事介助							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
11 口腔ケア							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
12 着衣・脱衣							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
【質問2】 1日の仕事が終わった後の疲労度はどの程度でしたか？							
← -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 →							
非常に楽である 楽 やや楽である 普通 ややきつい きつい 非常にきつい							
【注意事項】							
弊社が管理する個人情報は、あらかじめお客様の同意がある場合、法令に基づき要請された場合などを除き、第三者に提供または開示はいたしません。 ～アンケートにご協力頂きまして、誠にありがとうございました～							

介護ロボット導入計画

<p>(1)導入背景および目的</p>	<p>当施設は平成20年5月に開所し、80床のベッド数を有し、本年12月現在満室の80人の入居者を受け入れております。当施設の全入居者の25%が全介助(要介護4.5)レベルの方であり、生活する上で介護職員の介助が必須の状態にあります。</p> <p>昨今、介護業界においては、ノンリフティングの考えが浸透しつつありますが、介護業務全般を機械化する事は現時点では困難であり、未だに移乗、排泄、入浴作業などを人によって行っております。またそのような業務を継続的に繰り返すことにより、身体的に負担のかかりやすい腰部に痛みなどの苦痛を伴う者も少なくありません。そういった身体的な症状の出現している職員へのフォローや、ひいては身体的な負担を掛けない介護作業などの工夫などが、永続的な課題となっております。</p> <p>また、超高齢社会において介護職員の確保や、離職率の低減においても早急な対応を余儀なくされております。腰痛を抱える職員も多く、本人が望むにもかかわらず、介護職を続けられるかわからないといった不安の声も多く聞いております。</p> <p>このような中、当施設は今後も重度者の受け入れ対応力を上げ、自立支援介護の質向上のためにも介護職の身体的負担を軽減することは喫緊の課題と考えています。</p> <p>今回、本事業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護業務に伴う腰部への負担を低減する ・介護サービス(自立支援介護のケアの質)の向上 ・離職率の減少に寄与する <p>を目的に、特に腰部負荷作業となる以下4分野</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 移乗作業(ベット⇄車椅子 ベット⇄ストレッチャー 低床⇄車椅子) ② トイレでの排泄介助作業、ベッドでのオムツ交換、体位変換 ③ シャワー浴・機械浴などの入浴介助 ④ 食事・整容・家事などの生活支援作業 <p>に対しCYBERDYNE社「ロボットスーツHAL®」(以下本機)を導入し、研修を実施します。</p> <p>【参考】 当施設では看護・介護職員のほぼすべてが程度の差はあるが、腰に不安をかかえながら業務を行っている。また、常時腰にコルセットを使用(予防も含む)して業務を行っている職員も多い。</p>
	<p>(2)事業実施の方法および検証方法</p>

(3)事業実施の目標・期待効果 事業内容を実施することにより、以下を目標とします。

① 目標:本機使用による腰部疲労度の評価数値を2～5低減することを目標とします。

① 検証方法:10段階評価表を使用して(添付資料A)本機を利用した場合の腰部疲労度と本機を利用しなかった場合の腰部疲労度を比較します。定期的に測定することで本機による腰部負荷低減の効果について可視化します。

② 検証方法:ヒアリングシートを活用して、利用者、および利用者家族に対して、満足度調査を実施します。

③ 検証方法:退社時のヒアリングを通じて、腰痛が原因での退職者数を把握します。

【介護ロボット導入により期待される効果等】

① 職員の処遇改善およびモチベーション向上:介護ロボットは腰痛で悩む職員への処遇改善となることが期待され、また、腰痛が原因で業務負担に苦しむ職員のモチベーションが向上することが期待されます。

② 利用者の満足度向上(ケアの質の向上):介護者の腰部負担が軽減することで、介護者にゆとりが出来、施設利用者へのサービス(ケアの質)が向上し、利用者、およびその家族の満足度が向上することが期待されます。当該介護ロボットは、すでに腰部への負荷を科学的に軽減できることが証明され、論文として発表されています。さらに当該介護ロボット導入施設では、職員の移乗時の負荷低減が利用者からも移乗時に安心できると評価されています。

③ リクルート効果:介護ロボットを活用し、従業員の負担を軽減していることを、アピールすることで、職員厚生を重視する施設として、他の施設との差別化が期待されます。

④ 他の施設へのモデルケース:腰痛でなやむ介護職員を抱える他の施設と、先進的な取り組みを共有することで、名古屋市介護事業所全体の士気を高め、処遇改善事業のモデルケースを目指します。

(4)導入計画スケジュール

平成29年3月導入
 平成29年4月 初回導入講習に参加
 ↓
 施設内で使用者講習を実施
 ↓
 運用開始
 ↓
 以降毎月定期報告(CYBERDYNE社)

平成29年4月 第1回研修会
 平成29年10月 第2回研修会
 平成30年2月 施設内で効果検証、および年次報告書作成
 平成30年3月 年次報告書提出(1年目)
 平成30年10月 第3回研修会
 平成31年2月 施設内で効果検証、および年次報告書の作成
 平成31年3月 年次報告書提出(2年目)
 平成31年10月 第4回研修会
 平成32年2月 施設内で効果検証、および年次報告書の作成
 平成32年3月 年次報告書提出(3年目)



(5)補助事業の開始及び完了予定日 平成29年3月31日～平成32年3月31日